

会 議 録

会議名 (付 属 機 関 等 名)		平成28年度 第2回 川西市社会教育委員の会	
事務局 (担 当 課)		教育推進部 まなび支援室 社会教育・文化財課(内線 3421)	
開催日時		平成28年5月26日(木)10時00分～12時00分	
開催場所		アステ市民プラザ ルーム2	
出席者	委員	生田議長、安藤副議長、米田委員、桜井委員、細見委員、伊藤委員、泉委員 計7名	
	その他		
	事務局	枅川まなび支援室長、井上社会教育・文化財課長、大屋敷地域こども支援課長・村山中央図書館長、瀧花中央公民館長、山中(社会教育・文化財課書記) 計6名	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数 0名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		1. 開会 2. まなび支援室長あいさつ 3. 前回の会議録の承認 4. 報告事項 (1)各協議会等の会議報告について (2)その他 5. 議題 (1)平成28年度年間研究テーマについて (2)平成28年度社会教育委員の会の運営方法について 6. その他	
会議結果		別紙のとおり	

審 議 経 過

NO.1

議長	<p>第2回社会教育委員の会を開会します。田中委員、上西委員、秋山委員は欠席です。それでは開会にあたり教育委員会からあいさつをお願いします。</p>
まなび支援室長	<p>(まなび支援室長挨拶)</p>
議長	<p>前回欠席で今日初めて出席のA委員にあいさつをお願いします。</p>
A委員	<p>私は魅力ある公民館講座を行うにはどうしたら良いか、ここで検討していければと常に思っています。15、6年前に緑台公民館で「ポップスを歌おう」と「ゴスペルを歌おう」の2つの公民館講座を受けることができました。そこで出会った講師や当時の館長にコーラスグループを作ってはどうかと持ちかけていただき、フローラアンサンブルという登録グループを作りました。そして、グループで出会った仲間や講師で「川西市民創作ミュージカル川西の金太郎」を製作するに至りました。こんなに楽しい人生が待っていたとは思いませんでしたので、皆さんにも私の様な人生が楽しめる魅力ある講座を作ってもらいたいということでこの場にいますと思っています。</p>
議長	<p>次、前回の会議録の承認についてです。事務局説明をお願いします。</p>
事務局	<p>平成28年度第1回会議録につきまして、1頁目には会議日程や出席委員などを記載致しております。また、2頁目からは、会議次第に基づきご審議頂きました経過などについて調整させて頂いております。なお、報告事項については、題名のみ記載に致しております。</p>
議長	<p>質問はありませんか。ないようでしたら、承認を頂いたという事にいたします。つぎに3の報告事項の各協議会の会議報告に入ります。前回、就任頂いた各協議会で今日までに開催された委員会や協議会があり、報告しておくべきことがありましたらお願いします。</p>
A委員	<p>出席はできなかったのですが、5月14日に生涯短期大学レフネックの入学式が行われました。</p>
議長	<p>それでは議題に入ります。平成28年度年間研究テーマの設定についてと運営方法についてです。ここ6年ばかりは阪神北地区社会教育委員協議会の年間テーマに即した形で選定しています。ただし、昨年と一昨年については、別途、個別のテーマを設けて検討していました。資料1の過去の例を参考に見て頂けたらと思います。27年度と25年度については資料2の方に書かれているかたちで行いました。それでは、研究テーマについて、意見をうかがいます。</p>
A委員	<p>私は阪神北地区の社会教育委員協議会の年間テーマ、サブテーマでいけたらと思います。地域、学校、家庭が育む社会教育のあり方で、昨年度までは「つなぐ」という言葉を使っていましたが「育む」という言葉に変わりたいのではないかと思います。</p>

審 議 経 過

NO. 2

事務局	<p>その件で説明させていただきます。資料1にありますように、阪神北地区社会教育委員協議会年間テーマについて24年から27年まで「地域、学校、家庭をつなぐ社会教育のあり方～学びを通じた新たな関係づくりの方策を考える～」ということで4年間同じテーマを継続する形でやってきたところですが、本年度、会長市の三田市から、今年度の研究テーマとして、「地域、学校、家庭が育む社会教育のあり方」が事務局案として理事会に提示され、承認されたところです。その中で提案説明としてあったのは「つなぐ」というところでは4年間阪神北地区の中で話し合わせ、又それぞれ市町の方でも「つなぐ」というところでは、それなりの事業成果が出てきているのではないかとということから、次の段階のステップとして「育む」という言葉を今回テーマの中に入れたとの提案説明でした。というのは国の中央教育審議会から昨年12月に提出された答申で、国の考え方としても今までは学校は地域が支援していくという立場を取っていたのを、今後は連携、協働という、次のステップに立っているという事を踏まえた上で、阪神北地区の社会教育委員協議会のテーマにつきましても「つなぐ」から次のステップの「育む」というところにステップアップさせた形でテーマを設定をしましたと提案説明を受けて参りました。正式には6月4日の総会にかけられ、年間テーマに決定していくこととなりますが、補足のかたちで今年度のテーマについて説明をさせていただきました。</p>
I委員	<p>このテーマの一番の問題点は「育む」ではなく「が」なんです。「を」が「が」に変わった事で、地域、学校、家庭に社会教育が育まれるという形になる。この「が」の意味というのは大きな意味があり、三田市がどういう意図で持ってきたのか具体的に話を聞いていないのでわかりませんが、「を」と「が」で全く意味合いが違ってくるという事を認識しておかないといけないと思います。実は学校、地域、家庭を繋ぐというのは、学校があり家庭があり地域があり、三者がそれぞれ手を繋ぎあって三角形を作るという事を発想され、文科省や厚生労働省はこういう三者連携を言っています。ところが兵庫県はそんな事は言っていないのです。言いたしたのは私ですので説明させて頂くと、子どもが円の中心にいて、子どもを支える家庭があり、更に子どもと家庭を支える学校があつて、更に子どもと家庭と学校を支える地域社会があります。同心円状に広がっていく関係を、兵庫県では三者連携として提唱し、その推進を県民運動として平成13年から取り組んできたという経緯があります。地域社会でも地域力や家庭教育力の低下が叫ばれる中で、社会教育がどうコミットしてこの三者を上手く繋げていくことが出来るかということに、社会教育が役割を果たしてきたという今までの経過があるのですが、今度は三者が社会教育を育み、我々は育まれる方になるのです。育まれ方をどういう風に作るのかが、このテーマにおける大きな意味だと私は思います。</p>
D委員	<p>12月21日の中教審答申ですが、1億総活躍社会の為、学力を伸ばす為に地域が学校に負担をかけなさいというすごい内容になっています。今までの社会教育に無かった時間が今回の答申に入ってきてしまっている。同心円の真ん中に子どもがありながら学力を向上するような形で、地域が働きかけるという風になる訳です。同じように兵庫県がその枠組みを持っているのだったら、そこでの内容が全然違うのだよと、今まで社会教育が作ってきた関係や関わりの所が1番真ん中に来るのだという事を見ておかないといけない。そうするならば今、社会教育が謙虚になっているが、実は良い仕事してきたというとらえ返しが1点。2点目はそれで今、きつくなっている学校教育を少し違う観点から働きかけ</p>

	<p>る、この2つが必要だということで社会教育に関して整理できると思います。そこで考えた時にテーマは社会教育の再発見とか、社会教育の価値の適用とか、そういった事が出来たら一番良いのではと思います。</p>
<p>H委員</p>	<p>今聞かせていただいたとおり「を」と「が」の違いで捉え方が違う。27年度の地域・学校・家庭「を」と言うのはそれぞれが単体というイメージが強いのですが、28年度地域・学校・家庭「が」というのは一体化して一つの連携ができた上での捉え方が前提にあるのかなというところで、それが社会教育を育てていくとなると、学校の役割はどうなるのだろうかとか少し大変だなという思いがしているところです。</p>
<p>E委員</p>	<p>サブテーマにもある様に学びを通して新たな関係を見て行く形を踏まえるならば、協働という面でテーマはどうかと思うのですが。</p>
<p>D委員</p>	<p>テーマを考えるうえで、川西の課題は何か、実態はどうかという、川西の状況をつかまえないといけない。</p>
<p>I委員</p>	<p>国は社会教育というものを重視しているのは間違いなく、学力社会を展開する上で生涯学習と理念をどの様に位置付けていくか基本的な事を考えたのは間違いなく、ところが学校、家庭、地域を本当に支えるだけの力が社会教育にあるのか。前回、少し話をさせていただきましたが、公民館というのはなぜできたかという、戦後の日本の中で民主主義の定着と封建的民衆の排除と新しい生産技術の伝播という事が非常に大きな意味合いを持っていて、いわゆる郡部の農村、漁村、山村地帯での民主主義化を図っていく拠点としてできていきます。いわゆる婦人学級とか青年学級など、中学校、小学校しか卒業していない人達にポスト教育をどうするのかというのが青年学級ですし、あるいはこれまで女は何もしないで子どもを産んで子育てだけをしていたら良いというのを、そうではないということを社会に提示していく大きな意味合いを持って公民館は成立してきた。1960年代半ばに松下圭一が出した「社会教育の終焉」という本の中で、市民が高学歴化し成熟した市民社会を作った時に社会教育の仕事は終わる。つまり、未熟な市民を高める為に、社会教育は存在し、その市民が自治能力を持って高い成熟社会を作り始めた時に、行政が教育や学びを提供するシステムは必要ではなくなる。つまり公民館も必要なくなり、コミュニティセンター化して市民が自分達のやりたい事をやる、そういう拠点を作れば良いというのが一番の論点として語られています。行政改革を迫られた首長さんは、そういう論理に乗って行く傾向が大きくなってきたのが、私は社会教育の衰退の大きな原因だと思うのです。では、社会教育が三者の連携に何を果たしてきたかというところで、公民館は、趣味の講座が一番人気が高く、市民が社会の中で社会課題、地域課題を解決するために集まって知恵を出すという拠点ではなく、個々の生活を豊かにしていくための仕掛けの場面になっている。今ちょうど中学校がトライやるウィークをやっているのですが、トライやるウィークを作ったのは社会教育ではありません。地域の力と学校との協力関係の中で出来ています。という事は三者を繋ぐと言いながら社会教育が果たした役割はほとんどないし、今、ぎりぎりの状態にある社会教育にそれだけの力があるかという私はないと思います。三田市が「を」と「が」を何も考えずに出して来たとは思わない。三田市教育委員会は考えていなかったかも知れませんが、三田市の会長は絶対考えていると思っていま</p>

	<p>す。それでは、山積みされた地域課題を解決していくために求められるのは何かという と、より質の高い学びであったり仲間であったり、あるいは市民の役割であったりという 時に、質の高い学びを支援する組織はどこにあるのかということ、社会教育に戻るのです。 という事はこの「を」というのは「を」では無く「が」にしたという事は、地域、学校、 家庭の抱える様々な課題を解決していくために、この人達が社会教育に対してこういう事 をして欲しい、こういう知恵をくれないかという要請をかければかけるほど、社会教育は その刺激を受けながら活性化していく、つまりジリ貧になってきた社会教育をもう一度再 生していく一つの仕掛けとなっていくのではないかという様なことがこの「が」の中に含 まれているのかなと思います。成功例を挙げますと、埼玉県飯能市の公民館で女性に係る テーマを取り上げる女性講座を開いているのですが、その講座のOB達がNPO法人ぬく もり福祉たんぼぼというグループを作り、公民館講座で学んだ人達が自分達の手で居宅介 護支援や家事援助、子育て支援という様な事を地域ビジネスとしてNPO法人を継続的に 立ちあげる活動に転換している。そういった講座をきっかけに自分達の役割や仲間を見つ けて地域課題の解決の為に自分達で動き始める。そういうしくみを作り出すのが本来の社 会教育ですが、川西の公民館にその力はありません。このテーマを掲げた時に川西の社会 教育なり公民館のこれから果たして行く地域社会の繋がり方というのをテーマにしていく ことが必要かと思えます。さきほどD委員が言われた様に、それでは川西の課題とは何 で、その課題の解決の為に公民館や社会教育本体はどういう風にしていくか、このテーマ に繋がっていくのかなと思います。</p>
議長	<p>川西の実態の良い部分として中学校区ごとに公民館があり、人間的な配置をされてい る。中身については色々な講座をやっておられるが、地域づくりの拠点になっているか という所では課題として常に問題提起をされているところです。川西市は地域におけるコ ミュニティ活動が他市に比べて活発で、コミュニティ組織が地域活動の拠点になっている 素晴らしい面を私なりに感じています。</p>
H委員	<p>学校が困っていることを要請する事で、地域も学校の子も達に目を向けて貰え、地域 の人達と一緒に育ててもらおうようになっていけばいいなと思います。そういう意味で要 請を受けていって社会教育が発展するという事であれば、そういう面があっても良いかな とも思いました。</p>
I委員	<p>学校の課題を学校として解決して行く時に、こういう力や人が必要だという要請が出る かどうか。地域に丸投げの要請ではなく、学校として自立していくために社会の中にどう 繋がっていくのかという時に、そういう人を創り上げていくのが社会教育で、問題はそこ だと思のです。今の川西の公民館は、公民館講座を組むだけでも大変な状態で、新たな ものを行政が求めても無理な状態です。今後、地域の中で課題を解決していく様な仕組み や学び、あるいは人づくりだとかそういった事に公民館がどう関わっていけるかという ところが大事であり、本来の社会教育の力を活性化させていくという事でなければ公民館は 更にしんどくなりつぶれていきます。</p>
D委員	<p>世田谷区の公民館に研修に呼ばれて行ったのですが、世田谷区は予算があり専任の職員 がたくさんいる。また不登校の子ども達を公民館が引き受けている。そういうイメージを</p>

審 議 経 過

NO.5

H委員	<p>川西市は予算はないけど、どうやって作っていくか、そういう人とどうやって繋がりながら作っていくか、たぶん両方に関わる話かなと思います。オンブズパーソンの仕事をやっていた時、川西市は不登校の子どもを引き受けてくれる場所が無く、民生委員さん達にお願いに行ったりしました。素敵なのがたくさんいらっしゃるのだから具体的に出来たら良いなと思いました。</p> <p>学校から帰って、食事がまともに食べられない子ども達がいるのを心配して下さる地域の方がおり、100円カレーショップを作ったので声を掛けてほしいという依頼がありました。そのように地域が福祉と一緒に繋がっていく、そういう声をかけて下さる方がいらっしゃるという事は、地域の中で意識を持った方が育っているのだなと思いました。</p>
議長	<p>H委員が話された様にそういう動きや意識が行政からではなく、住民から出てきている事は良い事だなと思いつつ、子どもの居場所の部分では川西市は本当に少ないのが事実です。昨日、川西中学校のトライやるウィークの実行委員会に職員OBという事で、参加しました。I委員、トライやるウィークで川西は色々なことをやっているのですが、地域に学ぶ中で成果としてはどうなのでしょう。</p>
I委員	<p>トライやるウィークが全国的に話題になり、各都道府県が同じようなことをキャリア教育という視点でやり始めた頃、東京都の教育委員会が当時の兵庫県の教育長を講師に招いた時がありました。東京都で一番質問が集中したのは、こんな事がどうしてできるのかということだったのです。その時に教育長がどう答えたか、聞いた話ですけど、これまで兵庫県では様々な形で県民運動を展開し、そういう県民運動の展開の中で子どもたちを地域で育てようという土壌があるからだと答えたということです。トライやるウィークが成功している最大の理由は行政が大きく関わらず、地域の人たちが自分たちの子ども達のためにという事で教育をしてくれる。単なる事業者側の地域へのパフォーマンスだけではなく、本質的に地域が子どもを支え、育むというのが皆の中に定着しているのかなと思います。地域の課題を皆で解決しようという力は兵庫県の場合はあるのだから、高齢者の問題も含めて、子育て支援も地域で解決できることというのはいくらでもあると思います。義務教育終了後の子どもたちの居場所は川西にはありません。それをどういう風にするかというのが長年の大きな課題ですが、たとえば公民館の空いている一室を、そのために置き、そこへ来ると何かをすることができ、その様子を見る人が1人いれば、居場所はできるのです。その部屋を見る人は、公民館主事の必要はなく、だからこそ、そこに地域の人になにかしらの関わりを持つような仕掛けができればいいなと思います。公民館を出入りしているたくさんの方がいるわけで、声をかけてくれる人がいれば、そこで新たな繋がりができてくる。トライやるウィークの根底にあるものと同じだと思います。</p>
D委員	<p>川西の中学校の不登校の様子はどうですか。地域によって大分違うのですか。</p>
I委員	<p>地域によって原因が違います。家庭内の不和、子ども及び保護者も含めて未熟、保護者の精神疾患など、大人の大きな問題を抱え込みすぎて、しんどくなった子どもたちの不登校というのが結構多いです。</p>

審 議 経 過

NO.6

D委員	その子たちは今どこにいるのですか。
I委員	学校によって色々です。例えば私の学校では、元々用務員室で倉庫になっていたのを第2相談室に作り変え、教室に入れないあるいは、教室に入ることがしんどくなった時に緊急避難に来られるように部屋を作っています。
D委員	たくさん来ておられますか。
I委員	少ないです。私のところは、とりあえずタッチ登校でいいよと言っています。学校には行けなくても、朝、時間になったら制服に着替えて、今日はいけませんと自分で電話をしてきてください。それで OK というような、できることをどれだけ蓄積させていくかということをやっています。
D委員	昔、川西は不登校が多かったのですが、どうですか。
I委員	今でも多いです。
D委員	今はその子どもたちは家にいるのですか。
I委員	家から出られる子と出られない子がいますが、セオリアに結構行っています。
議長	現実はそのような状況で確かに不登校の問題にしても家庭の問題にしても基本的には同じ状況が続いています。テーマ的に絞っていきたいのですが、E委員は、多田地区で核になって色々な地域活動をされているのですが、今までの話を聞かれていかがですか。
E委員	幼稚園も含めてですけど、どこの学校でも子どもさんも保護者の方もいろいろな課題を抱えておられるのですが、相談とか居場所に出て行かずにひとりで課題を抱えておられる方が多いです。セオリアも時々行かせていただいているのですが、我々とは話ができるのです。そのように気楽にいける場所が公民館を含め、そういう居場所づくりができたらと思います。さきほどトライやるウィークの話が出たのですが、私も県でトライやるウィークの推進会議があった時に1回出席したのですが、その時、当時の教育長が東京で話をしに来た、東京は有料であるそうだが、兵庫県は無料である、そこに差があると言っておられた。そう言った言葉も含めてやはり居場所はこれからも大事だと思いますのでそういった方向で議論ができればと思います。
C委員	平成30年の4月にオープンすると聞いているキセラ川西の複合施設の件で皆さんは、説明を受けておられるのかどうか。そのへんが今の川西の実態かなと思うのですが。
E委員	青写真は我々も説明を聞いているのですが、今の課題にあるような、関わりができる施設が作れたらなと思ったんですけど。
C委員	キセラに移転する中央公民館の規模が小さくなり、拠点的な公民館ではなくなってしま

審 議 経 過

NO.7

	<p>うということですが。</p>
議長	<p>キセラ川西への中央公民館の移転に伴う課題については、昨年度、議論していたところですが、どうでしょうか。テーマについて、居場所についてや公民館についての絞った形で論議できたらいいなと議長として思っていますが、いかがですか。</p>
C委員	<p>テーマは漠然とした形なので、サブテーマで川西らしさというか、必要なものとかそういうものを考えればいいのかと思います。</p>
議長	<p>サブテーマの方が案外作りやすいと思っています。結局、人と交流ができる場作りというか、不登校の子どもたちや閉じこもっている人たちに対してなんらか工夫できる場、しかけ、そういうのを積極的にやっていくというのが川西独自の部分でないだろうかと思うのですが。</p>
A委員	<p>子どもだけではなく、大人、高齢者の中にも閉じこもっておられる方が結構いらっしゃるので、その方達にも積極的に来ていただけるような公民館になればと思っています。</p>
C委員	<p>公民館にこだわっているわけではなくて、先程からの話にあるように、何が川西市に必要なのか、今までいろいろお聞きしたのですが、でも人材と人材と言っても不足しています。学童保育にしても人が足りない、保育士も足りない現状で、施設はどんどん増やしていけるとしても人が足りない。誰かリーダーになる人がいて、そこに人が集まってくる形ができれば良いと思うのですが、地域の現状もやはり同じです。例えば子ども会について、子ども会の人数が年々減っている現状を把握しないままに、自治会からはお金が何十万も毎年出ている。そんな人数なのに、これだけお金を出すのかそういう事が発端になって、地域で今、子ども会をどうするかという話になっている。それとそこから繋がってくるのがラジオ体操で体育部の人が毎年子ども会にお願いしている。子ども会がなくなったらそれはどうしよう。それなら老人会に頼もうかという感じで、依頼する先はなんでも老人会というような現状があり、どんなふうに人材を発掘していけばいいのかと思っています。</p>
D委員	<p>それしかないです。65歳以上の少し余裕が出てきた人たちがもう一度戻ってきてくれて、お金がかからず、動いてくれるところなのです。川西はそこが苦手で、すごく有能な人を使いきれていない。行政でどうやってそれを繋ぐかということなのです。</p>
I委員	<p>色々な話が出ていますが、テーマはなにかというと「社会教育の再生」、「社会教育の活性化」なのです。社会教育の活性化の中には、公民館も当然含まれてくるわけです。つまり公的教育機関は、物と人と継続的事業の3つで成立するわけで、物と人を管理運営する助言者が社会教育委員で、継続的事業の中身を助言するのが公運審だったのです。既に公運審はなく、本来ならこの2つは対立関係にあった組織なのですが、1つになったという状態の中で社会教育は推移し、社会教育を進めていくうえでそれらの要素が無くなって来た。そういう状況の中でこれからの社会教育をどうしていくかという事を、考えていかなければならない。今までは公的機関が社会教育という名のもとに、たとえば公民館に市民</p>

審 議 経 過

NO. 8

	<p>の公共空間を作り、その中で市民の活力をいかに高めていくか、行政がやって来たのですが、結局、公民館を使っている人達の意識としては、自分達の活動場所が確保でき、自分達の活動になにも言われなかったら良いという団体は多いと思います。その活動をどこかに役立てていこうとか、自分達の活動を地域社会にコミットしていく1つの手段としていこうとか、そういう所に至っていないところが、川西の公民館の1番大きな問題なのです。公民館活動をしている人たちの活動をどう地域と結びつけていくのかという事が、これからの公民館の大きな仕事だと考えると、学校・家庭・地域は、地域社会を構成する3つ要素です。この地域社会が公民館、社会教育をどう育てていくのかを逆からの視点で課題を投げかけてくれているのだから、サブテーマについてはそういう中で川西のどこに焦点を当てるのかというところで良いのかなと、社会教育という大きな枠組みでいくのか、それとも公民館という小さな枠組みでいくのか、あるいは、もっとカテゴリーを変えて子どもでいくのか高齢者でいくのか。それとも高齢者と子どもに特化せずに、もっと広い視野でいこうというのであったら物理的な事で公民館でも良いでしょう。あるいはもっと行政施策的にいくのなら、社会教育という所に持って行っても良いのかなと思います。ところで社会教育委員の会で1番欠けているのは何かと言うと、文化財なのです。でも間口を広げるとしんどくなるのでそれはいいと思うのですが、公民館でも良いのかなと、新たな公民館でも。</p>
D委員	<p>E委員がおっしゃった「気楽に行ける。」と言うのが良かったので、気楽に行ける居場所としての公民館。</p>
I委員	<p>居場所ではなく、公民館を地域の市民の公共空間に作り変えていくのか。そこには当然高齢者も子どもも成年もいるわけで、お母さん達もいる。時間が余ったら公民館に行こうとか、困った事があったら公民館に行こうとか、高齢者の方達が、仲間が欲しい、何か自分の役割が欲しい時に公民館に行ったら公民館の中で人との繋がりができ、社会貢献、地域貢献できる。そういう事のできる空間をどうやって作っていくのかというのも1つのテーマかなと思うのですが。</p>
議長	<p>「地域、学校、家庭が育む社会教育のあり方」をひっくるめて地域社会がという捉え方も1つの考え方かなとI委員から話があったのですが、いかがですか。</p>
D委員	<p>I委員がおっしゃった、「社会教育の再生」とかではだめですか。</p>
議長	<p>阪神北のテーマに合せているのが、今までの実態なのですが。</p>
D委員	<p>合わせるのはもったいないので、川西らしさを出す方がいいと思います。</p>
議長	<p>それでは「社会教育の再生」というのは、大きなテーマですが、川西のテーマという形で決定させて頂いてよろしいですか。次はサブテーマですが、具体的に何をしようかという所ですけど、先程、E委員やD委員からも出ていましたが、昨年は社会教育施設という形で論議していました。公民館だけに絞れたかったのですが、社会教育施設には、レフネックや図書館の問題もありますので、それらについても論議をやるかということでした</p>

審 議 経 過

NO.9

	<p>が、時間が取れず公民館に関する現状と課題、今後についてどうあるべきかという事で、それぞれの委員が出された事をまとめただけで終わっています。これを踏まえて「気楽に行ける公民館」これはサブテーマとして分り易く、そして色々な角度から、今後皆さん方の意見を頂きたいと思います。いかがでしょうか。</p>
C委員	<p>その方が、これから先、何かと論じやすいですね。</p>
議長	<p>今、気楽に行けていないのかというと、そういうことではなく、さらに違った角度で気楽に行けるということを考えてみるということです。今、公民館には正職員が1人もいなくて、嘱託職員と臨時職員で全てを行なっているのですよね。</p>
事務局	<p>明峰公民館に2人正職員、南公民館は1人正職員、清和台公民館にも1人おります。その他は再任用職員を正職員として捉えた場合は他の公民館にもいますが、現職の職員は今、申し上げたとおりです。</p>
I委員	<p>川西の場合は、基本的には社会教育主事はいないですね。資格を取っている人は、いるかもしれませんが正式な発令はされていないです。</p>
事務局	<p>昨年はたまたま採用試験を行う際に職員課の担当に聞きましたら、最近入庁した職員の中で、学校で社会教育主事を取っている職員が数名いると聞いています。それと市の方から派遣して社会教育主事の資格を取ったという職員が現在、他の部署ですが1人おります。</p>
議長	<p>社会教育主事のことは別にして、「気楽に行ける公民館」というやさしい言葉なのですが、子どもや地域の方を含め、色々な角度から公民館での連携や居場所の確保についてなど、そういう論点で意味広がっていくと思いますのでテーマは先ほども言いましたが、「社会教育の再生」サブテーマは、「気楽に行ける公民館」として今日はテーマを決めさせて頂いて、次回からはこのテーマに沿った形で、論議できればと思います。それでは、本日の会はこれで終わります。</p>